

「電子図書館レポート 2007」の発行にあたって

NAIST に附属図書館が開設されてから今年で 12 年が経過した。NAIST 附属図書館は、開設当時から、先端的な情報ネットワークー曼陀羅ネットワークーを基盤とした電子図書館の実現を目指していた。

確かに、開設当時のインターネットは現在ほど発達してなく、社会的にも、重要な情報メディアとして認識されてはいなかった。しかし、現在では、ほとんどの人々がホームページで知りたい情報を検索して入手し、伝えたい情報も任意の時間にメールで送受信しており、インターネットは社会生活・活動の基本インフラになっている。また、加入者数が 1 億を突破した携帯電話は、会話のみならず、携帯メールによる情報伝達と入手を可能にし、いつでもどこでも、という社会のユビキタス化を実現した。このように約 10 年間に於けるこの二つの情報通信環境の技術進歩とそれに伴う環境変化は目覚ましいものがあり、大学図書館にイノベーションをもたらしたことは間違いない。

また現在では、学術雑誌はほとんど電子化されている。これらの環境変化に対応して NAIST における図書館の利用形態は劇的に変化している。すなわち、最新の学術的研究情報は、紙媒体の図書館からではなく、学会・学術出版社・電子図書館などが提供する電子ジャーナルをインターネットにより研究室の自席から、24 時間、直接入手することの方が圧倒的に多くなっている。開設当初は、各種雑誌もほとんど電子化されていなかったため、電子図書館業務はこれらの雑誌や単行本の電子化と曼陀羅ネットによるデジタル情報提供サービスが主体であったが、学術雑誌のほとんどが電子化された現在では、雑誌電子化の業務は大幅に減少し、動画を中心とした授業アーカイブの作成・編集・運用の業務が増加している。大学院教育の充実・多様化・柔軟化が強く求められており、この授業のアーカイブ化は極めて重要な責務であり、今後重点的に推進する業務のひとつである。

さらに、機関リポジトリとして、本学が発信できる学内の電子化された各種研究成果（NAIST テクニカルレポートや学位論文など）を NAIST 電子図書館の専用検索窓口だけでなく、国立情報学研究所やミシガン大学が公開するメタデータ収集サイトにリンクさせ、本学の研

究成果の情報発信の広域化を推進する業務も重要になっている。

なお、法人化した国立大学は限られた資源配分の中で高いパフォーマンスを達成し企業並みの経営効率化が求められており、この目標を達成するためには、情報基盤環境の特徴のある整備が必要不可欠である。NAIST 電子図書館は、情報基盤環境の中核をなし、先端科学技術研究の遂行に直結する多種多様な情報をデジタル情報として効率よく提供することも求められている。今後の電子図書館は、図書の単なる電子化部署ではなく、大学における情報基盤環境の中核に据えて基盤情報提供部門に生まれ変わる必要がある。すなわち電子図書館の最終目標は、各研究者の研究業務遂行上の種々の情報を効率よく的確に提供できるシステムの構築であり、その実現に向けての努力が必要とされている。これこそが、NAIST 図書館における電子図書館研究開発室の使命であり、また、その存在意義でもある。

本レポートは、電子図書館研究開発室の近年の活動をまとめたものである。現在運用している NAIST 電子図書館システムの七つの特色（学内知的生産物のデータベース化・授業アーカイブ機能・メディアセンター機能・24 時間図書館・高度な情報検索機能・リアルタイム利用・複数利用者の同時閲覧）に直接関連する活動から、将来の電子図書館システムの目指す三つの機能（MyLibrary 機能・電子司書機能・知的集約センター機能）に資する萌芽的研究までが含まれる。このような開発研究活動を今後も積極的に展開し、NAIST 電子図書館において成果を検証し、わが国最高水準の電子図書館システムの実現に継続的に邁進することを強く願っている。

2008 年 7 月 29 日

理事・副学長（附属図書館長）

千 原 國 宏